

# 東アジアの環境問題について

九州大学 理事・副学長 小寺山 亘

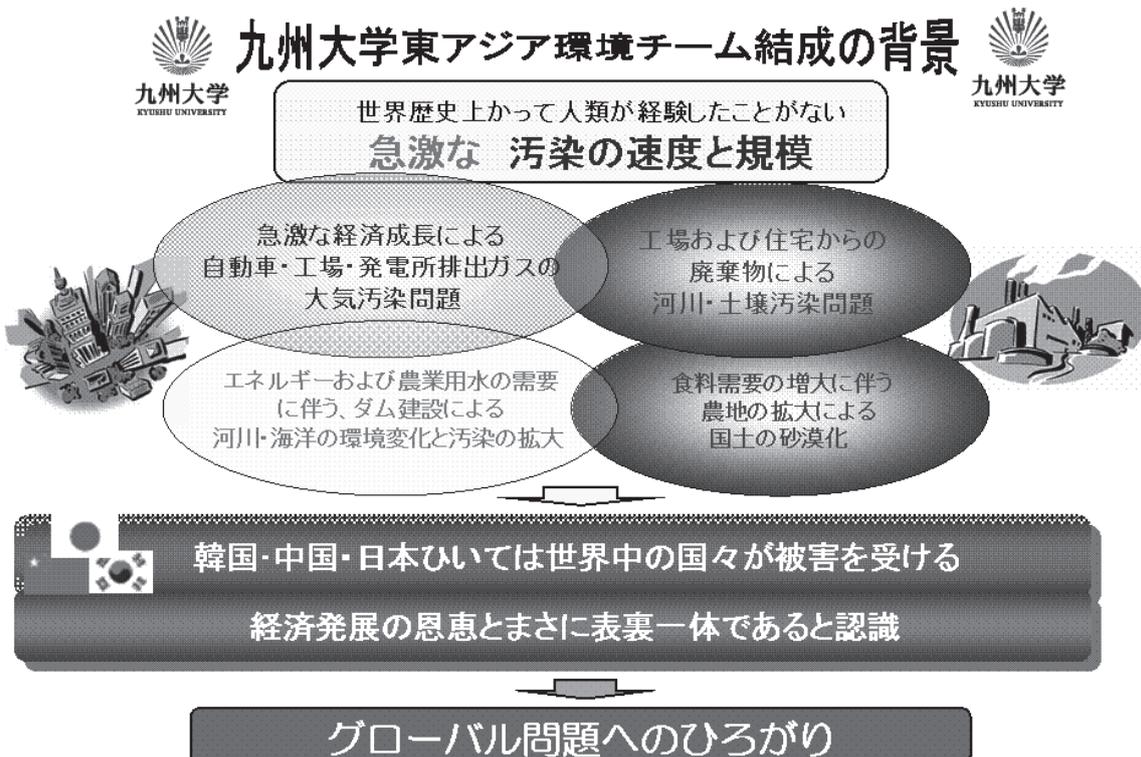
急速な中国の経済発展に伴って、自動車・工場・発電所などの排出ガスによる大気汚染、工場および住宅からの廃棄物による河川・土壌の汚染、食料需要の増大に伴う農地の拡大による国土の砂漠化、エネルギーおよび農業用水の需要にこたえるためのダム建設に伴う河川・海洋の環境変化と汚染の拡大など、どれを取ってもその速度と規模はこれまで世界歴史上かつて人類が経験したことがないほどの急激なものである。環境悪化の結果は中国は勿論のこと、日本・韓国ひいては世界中の国々が被害を受けるものであり、経済発展の恩恵とまさに表裏一体であると認識されつつある。

我が国は大気については偏西風、海洋では黒潮と対馬暖流などの作用によって直接の影響を受ける。

特に九州はすでに光化学スモッグの発生や越前クラゲの大発生による漁業被害などを受けている。

一方わが国は一足早く経済発展を遂げたが、その過程において環境問題の克服は最重要課題とされてきたし、ある程度の成功を収めたと言える。ただしその過程において、水俣・四日市に見られるような多大な被害を国民に与えてきたことも事実である。もしも中国の現状を放置するならば、その被害の規模も、またグローバルなものになることは必然である。

国際的な環境問題は経済発展の負の側面であるだけに政治問題化しやすく、国家間の協力関係は単刀直入には行き難い。古くはヨーロッパにおいてドイツ・英国の北欧諸国への越境大気汚染の解決には科



学的な知見の集積がキーポイントであったように、日中韓三国の研究者の協力が不可欠である。

九州大学は中国大陸にもっとも近い研究重点大学であり、環境研究においても優れた研究者を多数擁している。さらにアジア学長会議を主催し、ネットワークの形成にも十分な実績を挙げている。このような実績と立地条件を生かして、これまで研究者個人の環境研究を九州大学として組織化し、さらに大きく発展させるために九州大学東アジア環境プロジェクトチームを発足させた。チームを結成する過程で研究者と情報交換して、驚いたことに構成員30数名の約半数が既に中国・韓国の研究者と共同研究を行い、問題解決のために活動していることがわかった。

2007年11月14日に第一回研究者会議を開催した。会議には九州大学の環境研究者の他に中国の上海交通大学や同済大学の研究者も参加し、活発な意見交換を行った。会議で明らかになったことは、中国においては特に都市大気、河川・湖水の汚染が問題になっており、早急な対策が必要であること、さらに研究者だけでなく、日本の環境産業や経験を有している地方行政者などの支援を必要としていることなどである。

特に環境技術を有している企業の参加は重要である。これをビジネスチャンスと捉えることは自然ではあるが、それを超えて、まさしく一衣帯水の関係にある東アジアの同胞としての参加を皆様方をお願いしたいと考えている。

